

Weekly-Report

C X 週間展望 (3月8日～)

日産証券

調査課 菊川 弘之

ドル・円(1)

【先週レビュー】

先週レポートで「米10年物国債利回りは25日に一時1.6%台まで上昇した。ワクチン接種の進展などで年後半の経済回復期待が広がり、インフレ期待が高まった。～中略)。米長期金利の上昇をけん制する動き見られなかったことに加え、米国債先物の取組高が急減している中、7年債の入札不調を受けてストップロス絡みで10年債利回りは急伸した。

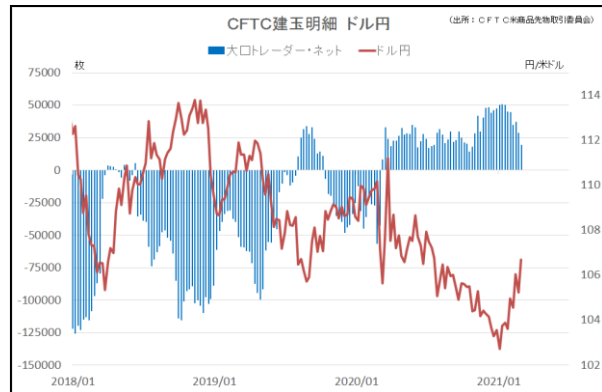
この長期債利回りの上昇に耐えきれずに好調に推移した米株式市場はハイテク株主導で調整された。パウエルFRB議長は長期債利回り上昇について、議会証言では現状では静観姿勢を示したが、今後、米金融当局の対応が注目される。

各市場で金利上昇に対する警戒感が高まっており、連銀総裁等の発言には注意。ただし、歴史的には金利は低水準であり、景気回復がマクロ経済指標で確認されていけば、緩やかな金利上昇は容認される可能性も。～中略)。パウエル議長はハト派姿勢を貫いているものの、市場は疑心暗鬼になりつつあり、良い数字に素直に反応するか否かは不透明。3月に公表予定の「ニューディール」政策以降で最大となるインフラ支出を盛り込み、米経済を新型コロナウイルス以前の状態に回復させるとする大型経済パッケージの内容・行方にも注意したい。

ドル円は、200日移動平均線を下値支持とした上昇トレンド継続か?」としたが、先週は、米下院が2月27日に1.9兆ドルの経済対策を可決し、法案の早期成立観測が高まり、米景気が力強く回復するとの見方から、円売り・ドル買いで始まった。

パウエルFRB議長は4日午後、米ウォール・ストリート・ジャーナル紙の公開インタビューに応じた。長期金利上昇について具体的な抑制策に言及しなかった。市場では長期金利上昇をさほど警戒していないと受け止められ、発言後に金利上昇に拍車がかかった。

長期金利上昇を受け、ハイテク株中心に米株式相場は全面安の展開となり、リスク回避のドル買いも強まった。



1
-当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

Weekly-Report

C X 週間展望（3月8日～）

日産証券

調査課 菊川 弘之

ドル・円(2)

【週末のNY市場】

週末のドル円は、続伸。雇用統計で景気動向を映す非農業部門雇用者数は前月比37万9000人増と市場予想（21万人増）を上回った。米長期金利は一時1.62%と2020年2月以来の高水準を付けた。日米金利差拡大でドル買い・円売りが強まった。新型コロナウイルスの普及に加え、米上院で議論されている追加経済対策も3月中旬までに成立する見込みで、景気回復が勢いづくとの見方が強まった。

CFTC建玉明細（3/2 現在）は、19,270枚の買い越し。前週（28,622枚の（円）買い越し）から縮小。



週末のNYダウは、反発。雇用統計で米労働市況が改善しているとの見方が広がった。米長期金利は雇用統計の発表直後に前日比0.06%高い1.62%と昨年2月以来の高水準を付けたが、その後は1.5%台半ばに低下。午前に長期金利が上昇した際は株には売り圧力が強まった。長期金利の上昇がハイテク株など高PER銘柄の重荷となった。

【今週見通し・戦略】

3月6日（土）からFOMC前のブラックアウト期間となる。過去、この期間は米国金利低下傾向。また、ここ数回の雇用統計後に一旦、米金利が頭を打つ傾向も確認できる。10日に10年米国債、11日に30年米国債の入札がある。2月末には、7年米国債入札が不調で金利上昇、市場の波乱要因となった。仮に金利が急ピッチで上昇しても、FRB当局者が口先介入できない時間帯で要注意。また、今週中にも追加経済対策が可決する可能性が高く、これも金利高要因となる。11日に欧州中央銀行（ECB）理事会が開催される。金融政策は据え置きの見通し。利回り上昇をけん制するような発言もあれば、パンデミック緊急購入プログラム（PEPP）の枠組みの中で債券買い入れの増額で対応が可能といった意見もある。理事会やその後のラガルド総裁の記者会見で、何らかの見解を示してくる可能性がある。欧州通貨の動きにも注意したい。

Weekly-Report



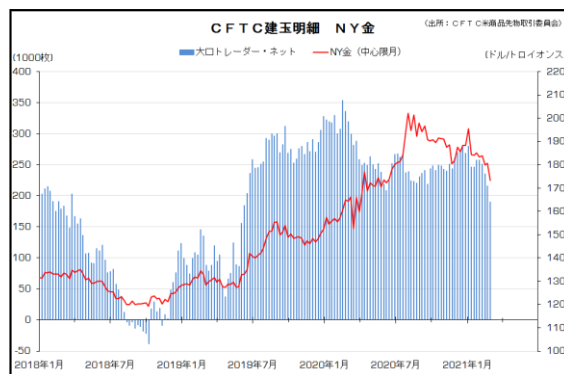
C X 週間展望 (3月8日～)

調査課 菊川 弘之

金先物(3/5 清算値:5,903 円)(1)

【前週レビュー】

先週レポートで《～前略》。一部、市場では米10年債利回りが1.6%を超えると、新興国市場の脅威になるとみられており、長期金利の動向と各市場の反応には注意。一方、ラガルド欧州中央銀行(ECB)総裁は「ECBは長期債の動向を注意深く見ている」と述べ、ECBが近いうちに債券購入を強化する可能性があるとの見方も出ている。欧州通貨の動きも要注意。



テクニカル面からは、52週移動平均線を内外共に割り込み、弱気に傾いている。52週移動平均線の向きが、これまでの上向きから下向きに変化するか否かに注意。上向きを維持したまま、出来高を伴った長い下ヒゲ形成や、長大陽線などのチャートパターンの底打ちパターンを見せれば、「グランビルの買い法則」となる。

一方、52週移動平均線が下向きに変化した場合、しばらくは戻り売り基調を続けながら底固めへ移行となる。》としたが、先週のNY金(4月限)は、米国債の利回り上昇やリスク回避の株安・ドル高を受けて続落となった。

パネッタ欧州中央銀行(ECB)専務理事は、債券利回りの上昇を抑えるため、ECBは買い取り額の増額や買い取りプログラムの拡大を躊躇すべきでないとの見方を示した一方、米金融当局者は米国債の利回り上昇を容認。パウエル米FRB議長は講演で、最近の米債利回りの急上昇については「注目に値し、留意している」としつつも、FRBによる介入が必要とは思っていないとした事で、欧米の債券利回り上昇に対する見方の違いを受けてドル高に振れた。

米下院は27日、1兆9000億ドル規模の追加経済対策法案を可決し、米上院に送付した。米民主党は追加対策法案の議会通過に向け、米上院で争点になるとみられる最低賃金の引き上げを盛り込む計画を撤回。またバイデン米大統領は中道派の民主党上院議員に譲歩し、1人当たり1400ドルの個人向け一時金の受給資格を厳格化することに同意した。

米議会予算局(CBO)は新型コロナウイルス感染拡大への対応費がかさみ、2021年の連邦債務の対国内総生産(GDP)比率は102%に上昇すると予想。米政権は追加経済対策の成立後に次の大型経済パッケージを公表する見通しで、巨額財政支出は米国債の利回り上昇を促すことになるとみられる。

Weekly-Report

C X 週間展望 (3月8日～)

日産証券

調査課 菊川 弘之

金先物(3/5 清算値:5,903 円)(2)

【週末のNY市場】

週末のNY金(4月限)は、3日続落。前日のパウエルFRB議長の講演後のドル高が続いたことが重し。ドルインデックスは昨年11月以来の高値を更新した。景気回復見通しに沿って米利回りが回復し、ドル高圧力がさらに強まることが警戒されている。ブラッド米セントルイス連銀総裁は長期債利回りを抑制するオペレーション・ツイストは想定していないと語った。



2月の米雇用統計で非農業部門雇用者数(NFP)が増加したこともドル高の背景だが、発表後のドル買いは一時的だった。米国の雇用回復は遅れており、コロナショックで失われた雇用をあまり取り戻せていない。超緩和的な米金融政策見通しは変化しておらず、ドルの先高感を限定している。

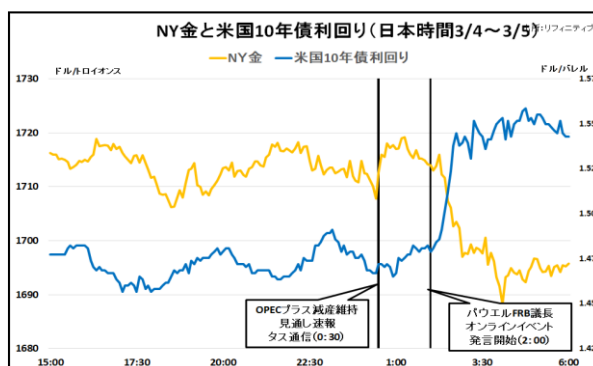
一方で、米長期債利回りが1.61%付近まで上昇した後、伸び悩んだことは金相場の下値を支えた。

CFTC建玉明細(3/2 現在)は、189,638枚の買い越し。前週(215,733枚の買い越し)から縮小。

【今週見通し・戦略】

パウエルFRB議長は4日、米WSJ紙の公開インタビューで、長期金利上昇について具体的な抑制策に言及しなかった。市場では長期金利上昇をさほど警戒していないと受け止められ、発言後に金利が再上昇となった。

長期金利上昇を受け、ハイテク株中心に米株式相場は全面安の展開となり、リスク回避のドル買いも強まった。



Weekly-Report



C X 週間展望（3月8日～）

調査課 菊川 弘之

金先物(3/5 清算値:5,903 円)(3)

【今週見通し・戦略（2）】

2013以降、長期金上昇とNY金の関係を振り返ってみると、「金利上昇⇒NY金下落」の構図が見て取れる。NY金（4月限）は、依然としてチャート上の底打ち確認はできないものの、過去の10年債利回り上昇に伴う金利上昇局面におけるNY金下落率を当てはめると、1700ドル以下は底値圏との見方もとれる。（参照：3/3付：市場分析レポート「金、底値に接近中」）。



過去の金利上昇局面でのNY金下落率を当てはめてみると、8月4日終値（2039.8ドル）から18.1%安（バーナンキ・ショック時：終値ベース下落率）なら1670.59ドル。18.7%安（バーナンキ・ショック時：最大下落率）なら1657.9ドル。既に2018年安値～2020年8月までの上昇に対する38.2%押しを達成している。半値押しは1612.2ドル。

NY金は、出来高を伴った長い下ヒゲや、長大陽線などの底打ちパターンが出現すれば、安値売り込みを避け、買い場探し戦略が有効ではないか？ 円建て金に関しては、米金利上昇からの円安ドル高は下値支持要因にもなるだろう。

3月6日（土）からFOMC前のブラックアウト（FOMCの前々週の土曜日からFOMC終了時まで、FOMCメンバーの金融政策に関する発言禁止）期間となる。過去、この期間は米国金利低下傾向がある。また、ここ数回の雇用統計を見ると、雇用統計後に一旦、米金利が頭を打つ傾向も確認できる。10日に10年米国債、11日に30年米国債の入札がある。2月末には7年米国債入札が不調で、金利上昇、市場の波乱要因となった。仮に金利が急ピッチで上昇しても、FRB当局者が口先介入できない時間帯。また、追加経済対策が可決する可能性が高く、これも金利高要因となる。ブラックアウト期間中の波乱気味の動きや仕掛けには要注意。

ただし、米金利上昇からオーバーシュート気味に売られれば、株も金もV字反騰があり得るだろう。

Weekly-Report

C X 週間展望 (3月8日～)

日産証券

調査課 菊川 弘之

白金先物(3/5 清算値:3,887 円)

【前週レビュー】

先週レポートで《内外共に、2020年11月安値を起点とした上昇チャネル下限を維持できるか否かが焦点。OSE白金は、心理的節目4000円を維持できるか否かにも注意したい。金と白金の鞘は、ネックラインを割り込むと、これまでの「白金買い・金売り」が手仕舞われ、一部「金買い・白金売り」に転じてくる》としたが、先週のNY白金(4月限)は、金軟調や株安・ドル高を受けて調整局面継続。2020年11月安値を起点とした上昇チャネル下限割れ。OSE白金も、チャネル下限を割り込み、心理的節目4000円を維持できず。

金と白金の鞘は、ネックラインを割り込み、これまでの「白金買い・金売り」が手仕舞われ、「金買い・白金売り」に転じている。

【週末のNY市場】

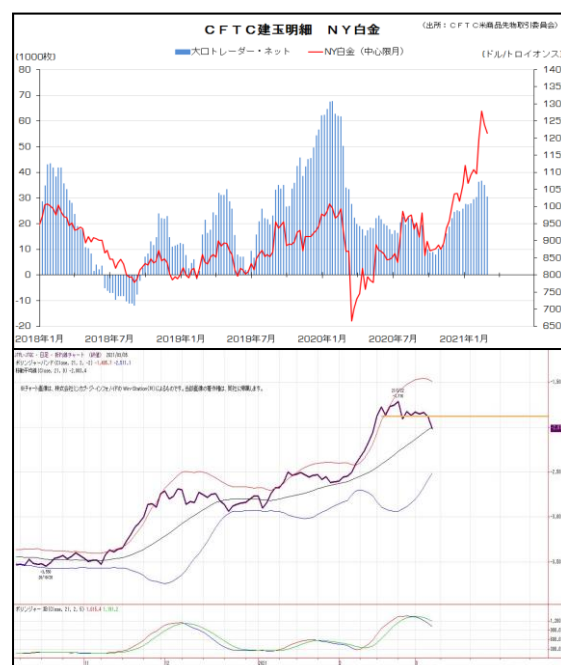
週末のNY白金(4月限)は、続落。パウエルFRB議長が前日に講演した後のドル買いが継続。米景気回復期待とともに米利回りが一段と上昇し、ドル高圧力が強まることが嫌気されている。ブロード米セントルイス連銀総裁は長期債利回りを抑制するオペレーション・ツイストは想定していないと語った。

CFTC建玉明細(3/2 現在)は、30,533枚の買い越し。前週(34,967枚の買い越し)から縮小。

【今週見通し・戦略】

1100ドル水準は、年初に保合った水準で支持線として意識されやすい。OSEは、3800円～3500円が価格帯別出来高の厚い下値支持帯。

金と白金の鞘は、ボリンジャーバンドの中心線を割り込んでくると、さらに追撃ポジション「金買い・白金売り」が積み上がる。



Weekly-Report

C X 週間展望（3月8日～）

日産証券

調査課 菊川 弘之

ゴムRSS3(3/5 清算値:269.9円)

【先週レビュー】

先週レポートで「産地価格は再び地合いを引き締めている。相関の高い原油高や、新型コロナウイルスの影響から産地でのゴム従事者減少が材料視されている。ウィンタリング（減産期・落葉期）を控え先高を見込む向きも多く、インフレ懸念が強まっている中、上値試しの流れが強まっている格好だ。



ただし、1月・2月と異なり、3月の月間騰落傾向は弱気優勢。

また、半導体の供給不足から、自動車メーカーが一時生産休止に追い込まれていることも、弱材料視される可能性。8月限一台足ベースでも、発会～前半は強気も、後半～納会にかけては、値を崩す傾向も見て取れる。（2/25付：市場分析レポート「ゴム（RSS3号）季節要因」参照）。

保合い上放れで仕込んだ買い玉は、トレイリングストップを用いながら利益を確定する戦術が無難か。価格上昇・ボラティリティ増加に伴う証拠金引き上げ等の動きがトレンド転換のきっかけになるケースも過去は多い」としたが、先週のRSS3号は、2月25日高値（293.6円）を起点とした調整局面入りだったが、1月27日安値～2月25日高値までの上昇に対する半値押し（257.9円）で下支えられ、週末にかけて下値を切り上げた。

【今週見通し・戦略】

週足チャートを見ると、前週が長い下ヒゲ、前々週が長い上ヒゲを形成しており、中期的には、この上ヒゲ高値（293.6円）～下ヒゲ安値（256.6円）のレンジ内で保合い、レンジ放れに大きく動意付く可能性。レンジ近辺では、逆張りポジションが溜まりやすいが、抜けた場合は、「踏み上げ」or「総投げ」となりやすい。

変化が起こりやすい対等数値の時間帯は、3月12日、22日、4月5日、6日16日、22日。

Weekly-Report

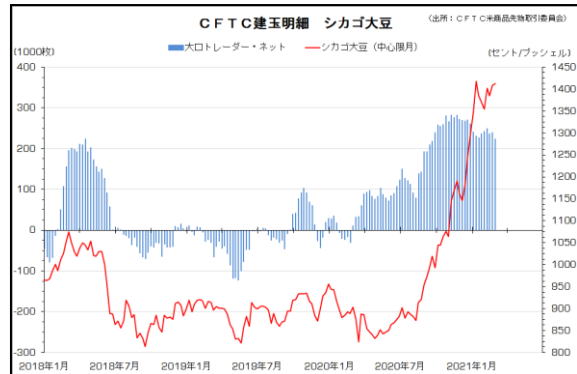


C X 週間展望（3月8日～）

調査課 菊川 弘之

一般大豆先物(3/5 清算値:46,000 円)**【先週レビュー】**

先週レポートで「ブラジルで多雨が続いているため、輸出開始遅延、それに伴い米国産大豆に対し旺盛な需要が向けられる可能性が意識されている」としたが、先週のシカゴ大豆（5月限）は、心理的節目14000セントを挟んだ強基調を維持。



米国の20/21年度の期末在庫率が2.6%と危機的な水準が見込まれていることに加え、ブラジルで多雨となり、同国の大豆の収穫が遅延すると同時に、これに伴い米国産大豆への需要が高止まりする可能性があることが背景。

週末のシカゴ大豆（5月限）は、大幅続伸。世界第2位の大豆粕輸出国であるアルゼンチンで少雨が続き、同国での減産見通しが高まったことが強気要因となった。また、米農務省（USDA）発表の月例需給報告を控えるなか、ポジション調整のための買戻しが入ったことも価格を押し上げる要因となった。

CFTC建玉明細（3/2 現在）は、223,662枚の買い越し。前週（239,808枚の買い越し）から縮小。

【週間純輸出制約高（2月25日までの一週間）】

大豆：53万3400トン（事前予想レンジ：10万～70万トン）

【今週の見通し・戦略】

2月に開催されたアウトLOOKフォーラムでは、価格高騰を受けて今春の大豆作付面積は前年度比で690万エーカー増の9000万エーカー、生産量は同3.90億Bu増の45.25億Buが見込まれるにもかかわらず、需要の増加もあって21/22年度の期末在庫率も3%台前半が見込まれるなど、危機的な水準に変わりはない見通しが示されている。

9日の米農務省需給報告で需給ひっ迫が再確認されたり、ブラジル産の収穫のさらなる遅れがあれば、三角保合い上放れシナリオもあり得る。

Weekly-Report

C X 週間展望 (3月8日~)

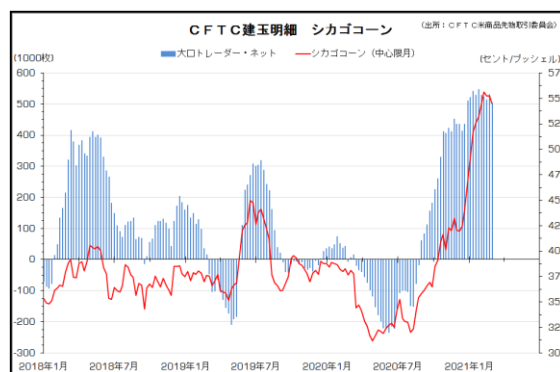
日産証券

調査課 菊川 弘之

とうもろこし先物(3/5 清算値:29,190円)

【先週レビュー】

先週レポートで「国際穀物評議会(IGC)」が発表した20/21年度の世界コーン生産高見通しは11億3400万トンと、前月より100万トン上方修正された。また同期末在庫見通しは2億6800万トンに据え置き。なお、2月の米農務省(USDA)見通しはそれぞれ11億3405万トン、2億8653万トン。



高値圏であるものの、穀物市場全体の低在庫率を考慮すると、下値は限定的。押し目は買われやすい地合いが継続見通し」としたが、先週のシカゴコーン(5月限)は、価格上昇による需要減少のレーショニングが指摘され、価格帯別出来高の厚い心理的節目550セント水準が上値抵抗として意識され始めている。

週末のシカゴコーン(5月限)は、大幅反発。アルゼンチンで少雨傾向が続く一方、ブラジルでは引き続き多雨となり主力となるサフリーニャコーン生育懸念が高まっていることが強気要因となった。大豆の堅調な足取りも強気材料となかなか買いの手が広がり、3月2日以来の水準まで上昇。終値ベースで540セント台を回復した。

CFTC建玉明細(3/2 現在)は、503,765枚の買い越し。前週(529,834枚の買い越し)から縮小。

【週間純輸出制約高(2月25日までの一週間)】

コーン: 15万4700トン(事前予想レンジ: 45万~105万トン)

【今週の見通し・戦略】

9日に米農務省需給報告、12日に期近3月限の最終取引(納会)。3月限は5月限に対し、14セント近い上ザヤ状態。5月限が3月限にサヤ寄せの動きがあるか否かに注目。3月末には作付意向面積が発表されるが、米農家はコーンよりも需給タイト感が強い大豆作付を増加させる見通し。

Weekly-Report

C X 週間展望 (3月8日～)

日産証券

調査課 菊川 弘之

東京原油(1)

【先週レビュー】

先週レポートで「急速な金利上昇を嫌気して、NY株式市場が修正入りとなっている。」

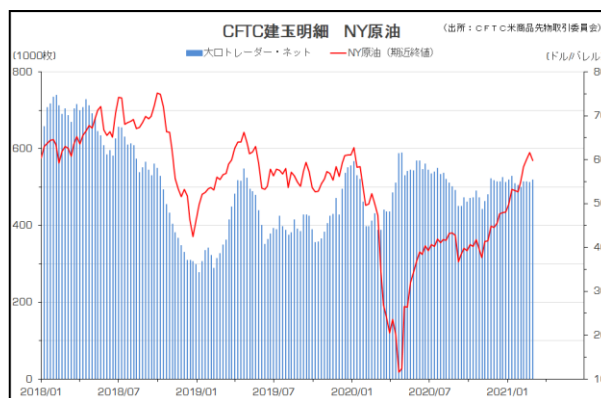
各市場で金利上昇に対する警戒感が高まっており、連銀総裁等の発言には注意。ただし、歴史的には金利は低水準であり、景気回復がマクロ経済指標で確認されていけば、緩やかな金利上昇は容認される可能性も。

今週は米雇用統計が発表される。ワクチン接種の進行が進んでいることもあり、ある程度の回復が期待されているが、パウエル議長はハト派姿勢を貫いているものの、市場は疑心暗鬼になりつつあり、良い数字に素直に反応するか否かは不透明。シリア情勢が再びきな臭くなっており、中東情勢の地政学リスクにも注意。

また、OPECプラスは、3月4日に会合を開き、生産政策を決定する。サウジが3月末の終了を予定している日量100万バレルの自主減産を段階的に縮小するか、OPECプラス全体で追加供給拡大の余地があるか、という二つの重大な問題について、協議する見通し」としたが、先週のNY原油(4月限)は、OPECプラス会合を控え、株式市場の調整もあり、軟調で始まったが、「石油輸出国機構(OPEC)プラス」が4日の会合で、3月の生産水準を4月も継続することで合意したほか、サウジアラビアが日量100万バレルの自主減産を継続すると表明したことから急伸した。事前予想では4月に減産規模を50万～100万バレル程度縮小するとの見方が優勢だっただけに、前日までに売りに傾けていたポジションの巻き戻しも入った。今回の協議でロシアは日量13万バレル、カザフスタンは同2万バレルの増産が認められた。国内需要を満たすためである。

アブドルアジズ・エネルギー相は「石油市場は回復してきたが、需要回復見通しは引き続き不透明」と述べた。ロシアのOPECプラスの代表であるノバク副首相は「世界の石油市場はパンデミックから完全に回復していない」との認識を示した。

米テキサス州の寒波被害による影響は、依然として製品中心に残っており、これも下支え要因となった。



Weekly-Report

 日産証券

C X 週間展望（3月8日～）

調査課 菊川 弘之

東京原油(2)

【週末のNY市場】

NY原油（4月限）は、大幅続伸した。一時は66.40ドルと、期近物として2019年4月依頼2年ぶりの高値を付けた。前日に石油輸出国機構（OPEC）プラスが現行の減産目標をほぼ維持することを決定したほか、サウジアラビアが日量100万バレルの自主減産を継続すると表明したことを背景とする買いが続いた。米雇用統計で景気動向を映す非農業部門の雇用者数が市場予想を大幅に上回る伸びとなった。新型コロナウイルスワクチンの普及に加え、3月中旬には米政府による追加経済対策も成立する見通しとなっており、原油需要の回復期待が強まった。



CFTC建玉明細（3/2 現在）は、519,019枚の買い越し。前週（511,840枚の買い越し）から拡大。

【石油掘削リグ稼働数】

米石油サービス会社ベーカー・ヒューズが5日公表した統計によると、同日までの1週間の国内石油掘削リグの稼働数は、前週比1基増の310基と、2020年5月以来の高水準。国内天然ガス掘削リグの稼働数は前週と変わらず92基。

【今週の見通し・戦略】

米ゴールドマン・サックス・コモディティ・リサーチは4日付のレポートで、「OPECプラス」が協調減産継続を決定したことを受け、第2四半期と3四半期の北海ブレント原油価格予想を引き上げた。第2四半期（4～6月）は1バレル＝75ドル、第3四半期（7～9月）は同80ドルと、5ドル上昇修正。

経済協力開発機構（OECD）原油在庫は年末までに、14年以来の低水準に落ち込むと予想。また、向こう6カ月間のOPECプラスの石油生産見通しは、日量90万バレル下方修正。イランとOPEC非加盟産油国の供給量は今年下半期まで、原油価格に順応しない公算が高く、OPECプラスによる早急な市場再調整が可能になると見方を示した。

イエメンのフーシ派が7日、サウジアラムコの主要輸出施設などをドローン攻撃（撃墜）。中東の地政学リスクにも要注意。

Weekly-Report

C X 週間展望 (3月8日～)



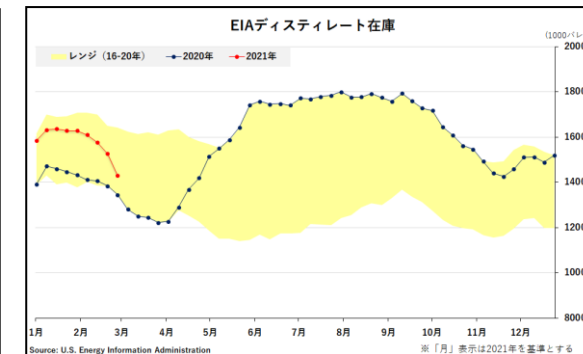
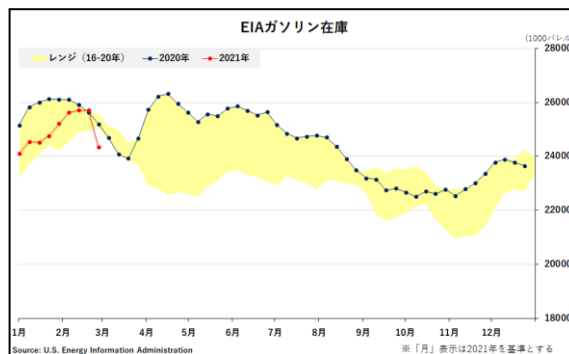
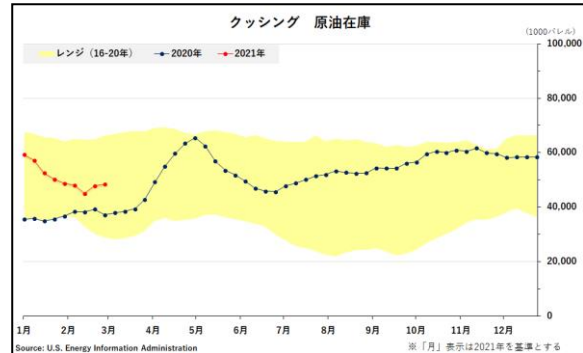
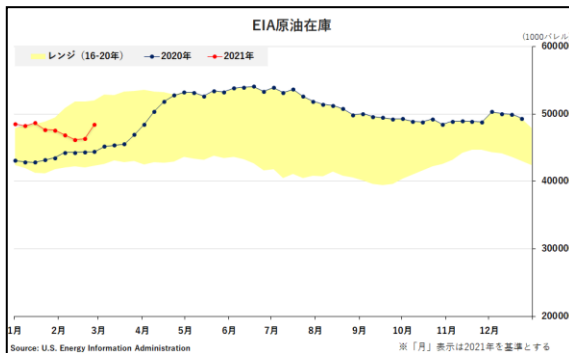
調査課 菊川 弘之

東京原油(3)

【EIA米週間在庫(エネルギー情報局)】

前週比

原油	4億8461万バレル	2156万3000バレル増加
クッシング	4831万バレル	48万5000バレル増加
ガソリン	2億4347万バレル	1362万4000バレル減少
留出油	1億4300万バレル	971万9000バレル減少



【石油連盟週報】

石油連盟週報(2月21日～27日)によると、ガソリンの週末在庫は、前週比1.0%減の194万5190キロリットル。灯油在庫は3.9%減の160万2314キロリットル。週間原油処理量は、8.1%増の283万5373キロリットル。推定出荷量は、ガソリンが5.6%減の81万6137キロリットル。灯油が4.9%増の32万9092キロリットル。

Weekly-Report



C X 週間展望 (3月8日~)

調査課 菊川 弘之

【週間行事予定 (3/8~3/14)】

日付	時刻	国名	対象	経済指標・行事予定	前回
3月8日(月)	8:50	日本	2月	銀行信金総貸出平残(前年比)	
	8:50	日本	1月	経常収支	868,300(百万)
	8:50	日本	1月	経常収支 貿易収支	868,300(百万)
	8:50	日本	1月	経常収支 季調値	2,278.4(十億)
	8:50	日本	1月	経常収支 貿易収支 季調値	868.3(十億)
	14:00	日本	1月	先行指数	-0.8
	14:00	日本	1月	一致指数	-1.2
3月9日(火)	1:00	米国	---	USDA需給報告	
	8:50	日本	Q4	国内総生産(GDP) 外需 2次速報値(前期比)	1.0%
	8:50	日本	Q4	国内総生産(GDP) 民間最終消費 2次速報値(前期比)	2.2%
	8:50	日本	Q4	国内総生産(GDP) 2次速報値(前期比)	3.0%
	8:50	日本	Q4	国内総生産(GDP) 年率 2次速報値(前期比)	12.7%
	19:00	ユーロ圏	Q4	国内総生産(GDP) 改定値(前期比)	-0.6%
	19:00	ユーロ圏	Q4	就業者数 改定値(前期比)	0.3%
3月10日(水)	19:00	ユーロ圏	Q4	就業者数 改定値(前年比)	-2.0%
	6:30	米国	3月1日, 週次	API 週報	
	10:30	中国	2月	消費者物価指数(CPI)(前年比)	-0.3%
	10:30	中国	2月	生産者物価指数(PPI)(前年比)	0.3%
3月11日(木)		中国	2月	外国直接投資(前年比)	4.6%
	0:00	米国	2月	クリーブランド連銀 CPI	0.1%
	8:50	日本	2月	企業物価指数(前年比)	-1.6%
	8:50	日本	2月	企業物価指数(前月比)	0.4%
	20:00	英国	3月	Refinitiv/イブンス PCSI	45.85
	21:45	ユーロ圏	3月	ECB リファイナンス 金利	0.00%
	22:30	米国	2月22日, 週次	継続失業保険受給総数	
	22:30	米国	3月1日, 週次	農産物週間輸出成約高	
	---	---	---	OPEC 月報	
		欧州		ECB理事会(フランクフルト)	
3月12日(金)	4:30	米国	前週分	CFTC建玉明細	
	納会	米国	---	シカゴコーン2021年3月限納会	
	納会	米国	---	シカゴ大豆2021年3月限納会	
3月13日(土)					
3月14日(日)					

※) 発表日時は日本時間

発表日時は作成段階のものであり、予告なしに変更される場合があります。

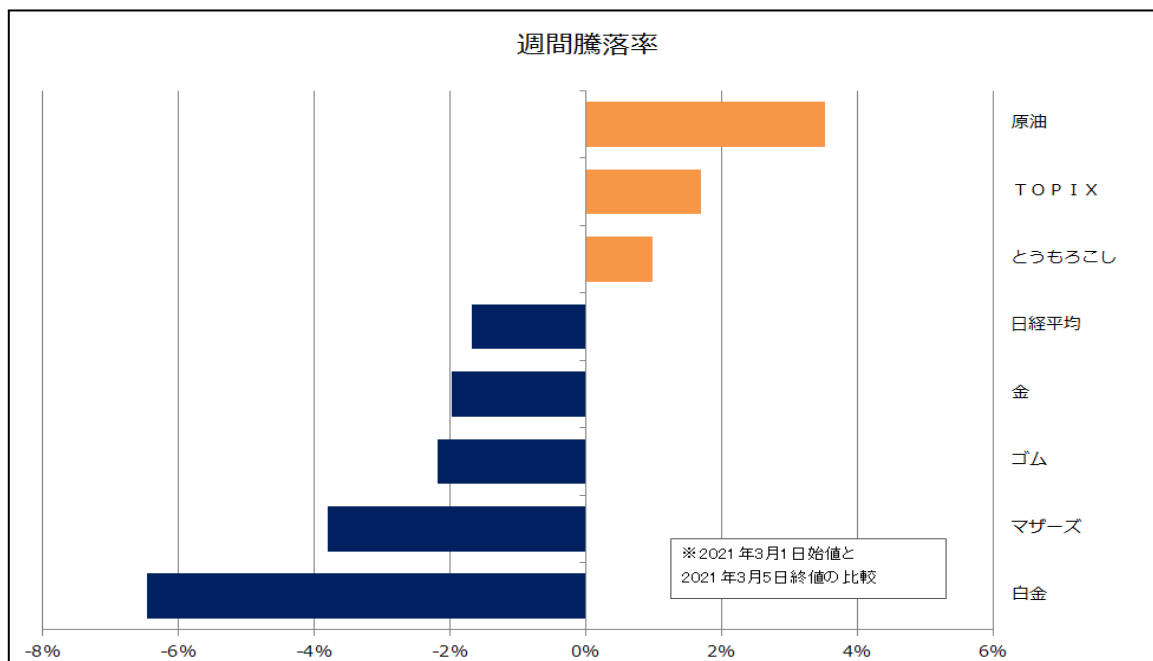
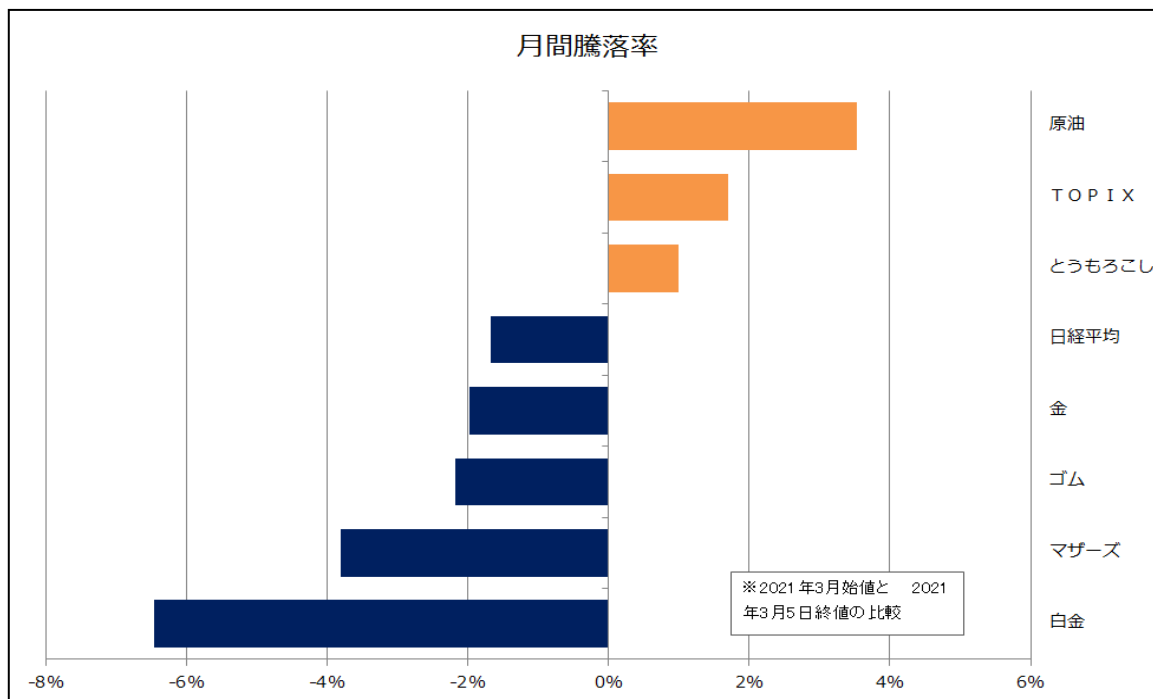
Weekly-Report

C X 週間展望 (3月8日~)



調査課 菊川 弘之

【騰落率(月間・週間)】



【留意事項】

弊社が取り扱っている金融商品等にご投資いただく際には、各商品等に所定の手数料や諸経費等をご負担いただく場合があります。また、各商品等には価格の変動等により損失を生じる恐れがあります。商品や取引によっては、投資元本を超える損失が発生することがあります。各商品等ごとに手数料等及びリスクは異なりますので、各商品等へのご投資にかかる手数料等及びリスクについては、当該金融商品等の取引概要やリスク説明等、契約締結前交付書面、目論見書、お客様向け資料等を十分にご確認ください。

<商号等> 日産証券株式会社（〒103-0014 東京都中央区日本橋蛸殻町 1-38-11）

関東財務局長（金商）第 131 号 金融商品取引業者 商品先物取引業者

<加入協会> 日本証券業協会、日本商品先物取引協会、一般社団法人金融先物取引業協会

当資料は情報提供を目的としており、弊社取扱商品に係る売買を勧誘するものではありません。内容は、正確性、完全性に万全を期してはおりますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い致します。